



すもう
ねずみの相撲





おかしむかし
昔々、あるところに

やさ
優しいおじいさんとおばあさんが

す
住んでいました。

ふる ちい いえ
古くて小さい家には、

す
ねずみも住んでいました。



ある日、おじいさんは

山へしばかりに行きました。

たくさん働いて、つかれたので、

ひと休みしました。

おや。草むらから、声が

聞こえてきます。



「でかんしょ。でかんしょ。」

太^{ふと}ったねずみと、やせたねずみが

相^{すも}撲^とを取っています。

やせたねずみが 投^なげられました。

おじいさんは、

「あれは、うちのねずみだ。」

と、気^きがつかしました。



「うちには、食べ物たものがたくさんあるのさ。」



「おまえ、強いつよな。どうして、そんなに強いつよの。」



おじいさんは、おばあさんに

ねずみたちが相撲を取っていた話をしました。

それを聞いたおばあさんは、

「うちのねずみが、かわいそうですねですよ。」

それなら、おもちをついて食べさせましょう。」

と言いました。

ぺったん、ぺったん。



おいしいおもちが、できました。

おばあさんは、ねずみの穴あなのまえ前に、

おもちを置おきました。

つぎ ひ あさ
次の日の朝、おもちは全部 ぜんぶ

なくなっていました。

やせたねずみが食べたのでしよう。

ふたり
二人はうれしくなりました。

おじいさんは、きょう やま い
今日も山へ行きます。

きょう すもう み
「今日も、相撲が見られると

いいですね。行ってらっしゃい。」





おじいさんは、いつものように

しばかりをしています。

「でかんしょ、でかんしょ」

と、またあの声こえが聞こえてきました。

草むらくさをのぞくと、やせたねずみも

がんばっていました。そして、今日きょうは

やせたねずみが勝ちかました。



二匹にひきのねずみは、座すわって話はなしをしています。

「おまえ、今日けふはすごく強つよいなあ。」

どうして、強つよくなったの。」

「おじいさんとおばあさんが、おもちを

作つくってくれて、それを食たべたんだよ。」

「いいなあ。おれも食たべたいなあ。」

おじいさんは、その話はなしを聞きいていました。



おばあさんは、おじいさんから

ねずみたちの話を聞ききました。

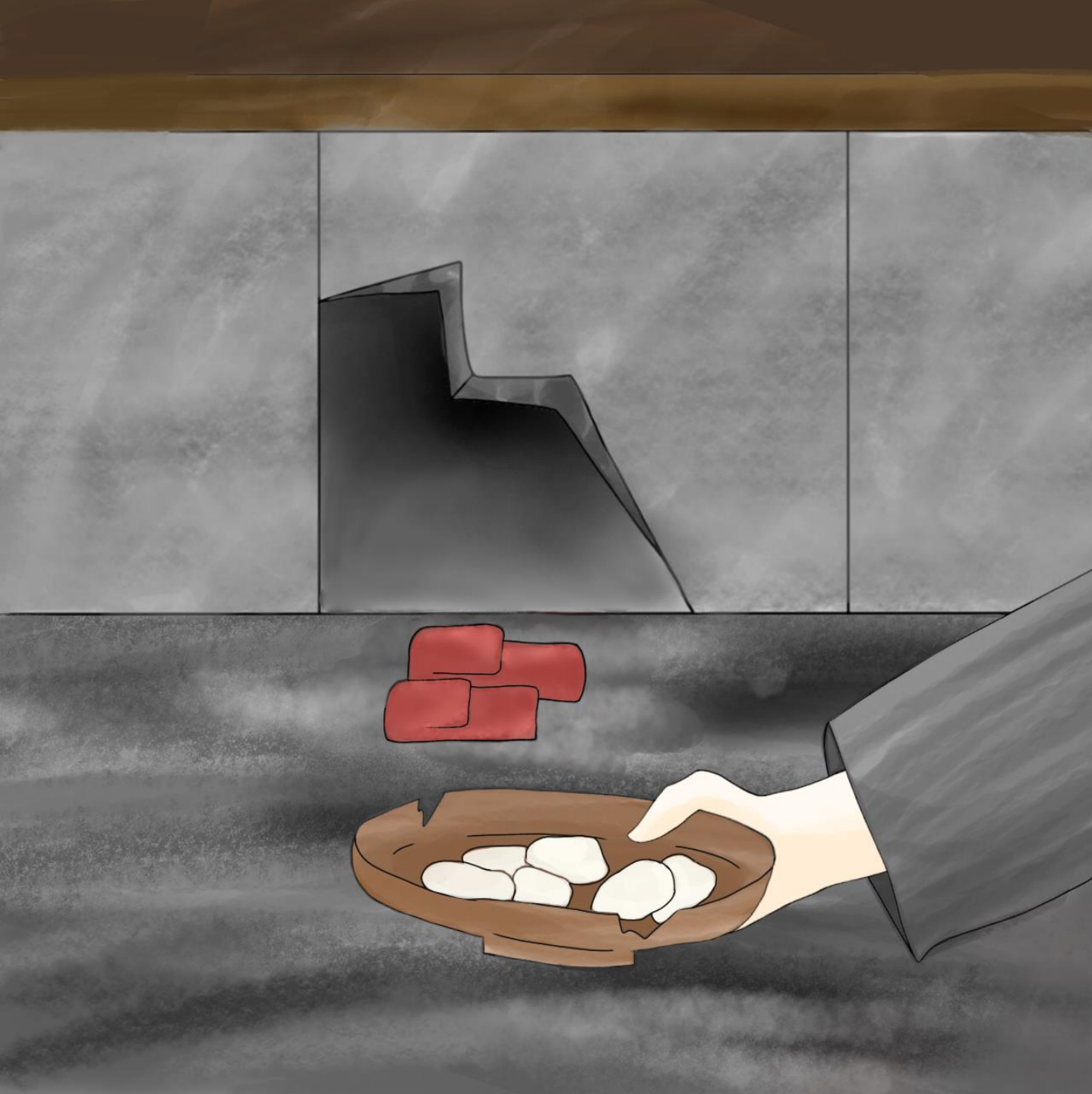
おばあさんは

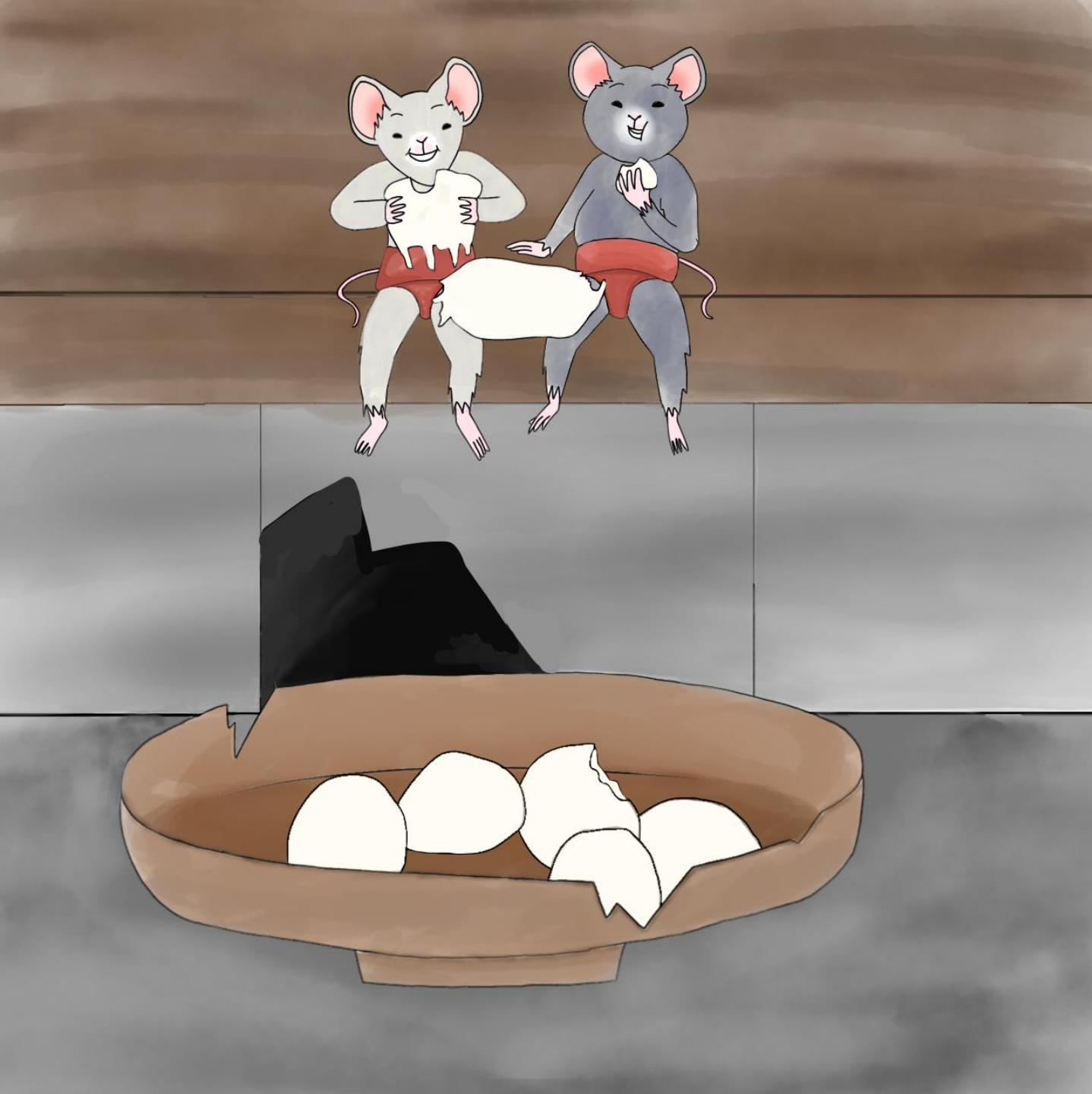
「じゃあ、今度は二匹のためにおもちを

作ってあげましょう。」

と言いました。そして、おばあさんは

赤いふんども二本作りました。





その夜、^{よる}おそい時間^{じかん}に、^{にひき}二匹のねずみが

おもちを食^たべています。

赤^{あか}いふん^{ふん}どしも、しめています。

「おいしいね。」

と、言^いいながら、^{ぜんぶた}全部食^たべてしまいました。

お皿^{わし}は、からになりました。



太^{ふと}ったねずみは、

「おじいさんとおばあさんに、

お礼^{れい}がしたいな。」

と思^{おも}って、家^{いえ}に帰^{かえ}りました。

そして、大^{おお}きなふろしきを背^せ負^おって、

もどってきました。

あさ
朝になりました。

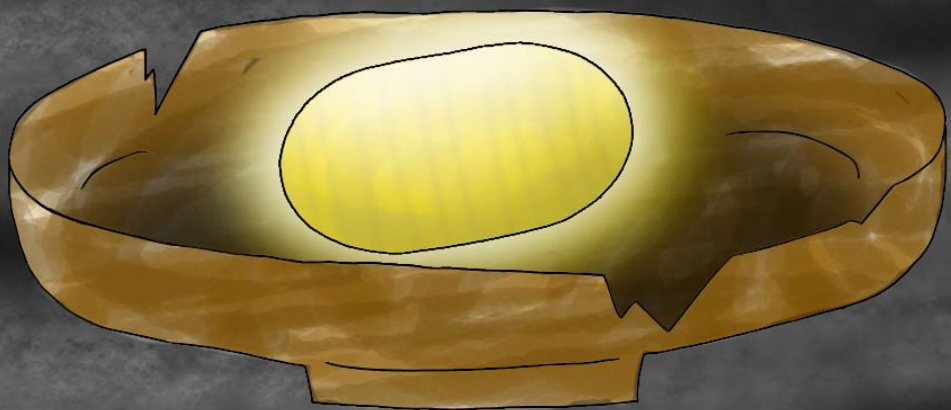
あな まえ
ねずみの穴の前に、

こばん いちまいお
小判が一枚置いてあります。

おじいさんとおばあさんは、

とてもおどろきました。

「あら、まあ。なんででしょう。」





きょう
今日も、二匹のねずみが

すもう
と
相撲を取っています。

おそろいのふんどしも、つけています。

きょう
今日は、おばあさんもいっしょに、

すもう
み
相撲を見えています。

「どっちも、がんばれ。」

おう
と、応えんしました。



それから毎日、ねずみが相撲を

取る声が聞こえます。

おじいさんとおあばさんは、その声を

聞きながら、畑仕事をします。

みんな、幸せに暮らしました。

「でかんしよ。でかんしよ。」

おしまい

でかんしょ
でかんしょ





ねずみの相撲

- 【 絵 】 木村百花
- 【 作 】 上野満喜・岡本由起子・奥村玲子・小澤照恵
紙屋聡子・辻雅代・坂内泰子・樋口万喜子
古屋恵子・門間亜里沙・吉田涼子
- 【 助 成 】 公益財団法人ベネッセこども基金
- 【 企 画 】 地球っ子教室（認定NPO法人地球学校）
- 【 作画監修 】 KIMaaG（学校法人岩崎学園 情報科学専門学校・横浜
デジタルアーツ専門学校の学生プロジェクト）